

## マタイによる福音書 7章 24-29 節

### 「あなたの土台は、どうだい？」

今日の箇所は、ただ道徳的な教えを伝えるためではなく、何が一番大事なのかを伝えていきます。マタイによる福音書の 5 章から始まる「山上の説教」の最後、まとめの部分です。「神のさばきを覚えつつ生きること」、その日を迎える時まで、主イエスの言葉に従うことが最も重要だ。それが 7 章全体の内容です。では、具体的に今日の箇所を見てまいりましょう。

日本は最近、3 日で 1 か月分の雨が降ったという異常気象が続いています。パレスチナ地方でも、雨期の 3 月と 10 月の 2 か月間で、年間の降水量のほとんどが降ります。豪雨となり、数分で川をあふれさせ、その氾濫した水によって家が押し流されてしまう。今日の箇所で語られている雨、洪水、風とは、まさにこの出来事を想定して語られました。我々が生きているときに必ず直面するであろう、人生における苦難を意味しているのです。だからこそ、あなたはどこに家を建てるのか、と主イエスは問っています。「岩の上に家を建てる」とは、簡単に言ってしまうと自分の土台をどこに建てるか、ということです。岩の上、つまり自分の基礎となるものの上に家を建てることです。基礎とは何か。それがキリストを信じる者にとって、まさに「福音の上」「神の言葉(聖書)の上」という事を意味するのです。

突然ですが、「三匹の子ブタ」のお話を覚えていますか？長男ブダはワラの家、次男ブダは木の家、三男ブダはレンガの家を建てますが、オオカミがやってきて、わらの家、木の家を吹き飛ばしてしまいます。しかし三男のレンガの家はどうやっても吹き飛ばせなかったため、三男ブタにやつつけられるというお話です。このお話は、時間をかけて賢い人になりなさい、という道徳的な教えで終わります。しかし、三男ブタが建てたレンガの家は、どこに建てられたのでしょうか。煉瓦は頑丈でも、これが岩の上と砂の上では全く強度が異なります。この三匹の子ブタと同じことを、今日の箇所は言っているのか、と思わないように注意してください！単に家の作り方や、建築材の素材の強度の問題ではありません。どこに家が建てられるかが、問題なのです。家を建てる時、土台の基礎作りに一番時間がかかります。地上に見えた家の枠組みを見て、やっと「家が建った」と理解できます。私たちは、目に見えるものだけを評価してしまいます。しかしその本質は「基礎にある」。そのことが今日言われています。

この話は、私たちの人生、生き方をどのように築いていくのか、どう生きていくのか、その基盤、土台をどこに置くのかということが問われているのです。しかし苦勞をして時間をかけることによって、しっかりした土台の上に、本当に人生を築くことができるのか、とも思います。人生の土台となるべき岩とは何でしょうか。ある人にとっては一流の学校を出て、一流の企業に勤めることでしょうか。しかしこれは、自分の好きなものを人生の土台にしてしまっていて、とても不安定です。決して崩れない土台、それが「わたしのこれらの言葉」である主イエスの言葉、聖書のみ言葉です。これをただ聞いているだけでなく、行うことによって土台がもっと頑丈になるというのです。どんなに聖書の知識があっても、そこに愛がなければ意味がない。しかし、なかなか行動に移せない方もいることでしょうか。では、何のために私たちがこうして主の前に集められ、共に礼拝を守り、聖書の言葉を聞き、主を賛美するのでしょうか。礼拝とは、なかなか行動に移せない方たちと「祈る」ことによって、愛の行動を伴っているのです。土台となる言葉を、決して自分勝手に解釈しないように、一人で理解しようとしないうように。共同体全体で御言葉を分かち合うようにと。

あなたの土台は、どうだい？と主イエスからの問いかけに答えて、共に祈りながら歩みたいと願います。